気象と気象用語



【11月の気象】

11月は、秋から冬への季節の変わり目で、天気が周期的に変化する時期です。11月の季語には「小春日和」と呼ばれる春のように暖かく穏やかな日もありますが、西高東低の気圧配置になると、大陸から寒気が流れ込み、北西の季節風が吹いて肌寒い日もあります。日々の温度変化は大きくなり体調を崩しやすい季節ですので、健康管理には留意が必要です。

松山における冬の季節現象によると、最早・最晩では、11月半ばを過ぎると、早い年では、初冠雪、 初霜、初雪、初氷を観測しています。なお、今冬季から初霜と初氷の気象台での観測は無くなります。

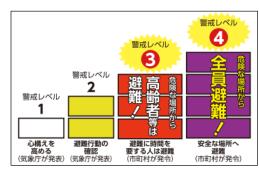
松山における冬の現象はこちら →https://www.data.jma.go.jp/matsuyama/kansoku/kisetsu.html

11 月は、降ひょうによる農作物への被害が過去に発生しています。2006 年 11 月 11 日の未明、瀬戸内海付近に南下した前線に向かって南から温かく湿った空気が流入し、大気の状態が不安定となり、中予や東予で、柿、柑橘類、キウイフルーツなどへ降ひょうによる被害がありました。

【気象用語】新たな防災気象情報 ①

有識者による「防災気象情報に関する検討会」の最終とりまとめを踏まえ、令和8年の出水期から防災気象情報の内容が大きく変わります。ここでは、「新たな防災気象情報」という表現で解説していきます。まだ確定していない点もありますが、重要な変更になることから、何回かに分けて説明していきます。

新たな防災気象情報では、「住民の避難行動に対応した 5 段階の警戒レベルに整合させ、災害発生の危険度の高ま りに対して名は知なびました。またはのまし、大臣、迷せ



第1図 内閣府の避難行動判定フロー

りに応じて各情報を発表」という方針のもと、大雨・洪水・高潮に関連する情報を整理し、現行から大きな変更が生じます。

今回は次の2点について説明します。1点目は、警戒レベル4相当の情報として「危険警報」が新設されます。警戒レベル4は、危険な場所から全員避難となっていて(第1図)、色分けでは紫色になります。現行では、土砂災害警戒情報や氾濫危険情報がレベル4相当にあたりますが、新たな防災気象情報では、大雨では大雨危険警報、河川氾濫では氾濫危険警報などとなります(第2図)。

2点目は、現在は大雨警報がカッコ付けで浸水害と土砂災害に分かれているものを、大雨警報と土砂災害警報に振り分けます。大雨警報は、短時間強雨等を要因とする内水氾濫、洪水予報河川を除いた中小河川の外水氾濫など"大雨に関する情報"です。土砂災害警報は、土砂崩れや崖崩れなどの"土砂災害を対象"とし、土砂災害特別警報や土砂災害注意報についても新設されます。洪水に関する情報は、洪水予報河川(愛媛県では重信川、肱川)のみを対象とした河川ごとの情報とし、これを一般向けの警報扱いとします。これまでの気象台による市町村ごとの洪水警報・注意報の発表は行わなくなります。

	大雨浸水 低地の浸水や 小さな河川の氾濫	河川氾濫 1級河川などの 大きな河川の氾濫	土砂災害 急傾斜地のがけ崩れや 土石流	高潮 海水面の上昇や 高波による浸水	住民が 取るべき行動
5	レベル 5 大雨特別警報	レベル 5 氾濫特別警報	レベル5 土砂災害特別警報	レベル5 高潮特別警報	命の危険 直ちに安全確保!
<警戒レベル4までに危険な場所から かならず避難!>					
4	レベル4 大雨危険警報	レベル4 氾濫危険警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル4 高潮危険警報	危険な場所から全員避難
3	レベル3 大雨警報	レベル3 氾濫警報	レベル3 土砂災害警報	レベル3 高潮警報	避難に時間を要する人は早めに避 難、避難の準備など
2	レベル 2 大雨注意報	レベル 2 氾濫注意報	レベル 2 土砂災害注意報	レベル2 高潮注意報	避難行動を確認(避難場所や避 難ルート、避難のタイミングなど)
1	早期注意情報				災害への心構えを高める

第2図 新しい防災気象情報の体系(案)